

# 2020年度淑徳大学卒業時調査報告

淑徳大学 高等教育研究開発センター

## 2020年度卒業時調査の目的

**2020年度末の淑徳大学卒業生を対象に行い、「本学の卒業認定・学位授与の方針」や「教育課程編成・実施の方針」に基づいた教育や学修成果について評価するとともに、今後の教育改善に資する事を目的として、3月に実施。**

**※千葉・千葉第二・埼玉は卒業式当日にマークシート、東京は3月上旬に教務システムによるWEB実施**

# 卒業時調査の回収率

学部名	学科名	対象者	回答枚数	回収率
総合福祉学部	社会福祉学科	170	157	92.35%
	教育福祉学科	138	131	94.93%
	実践心理学科	80	55	68.75%
コミュニティ政策学部	コミュニティ政策学科	80	68	85.00%
看護栄養学部	看護学科	99	94	94.95%
	栄養学科	72	68	94.44%
経営学部	経営学科	96	85	88.54%
	観光経営学科	90	69	76.67%
教育学部	こども教育学科	100	88	88.00%
人文学部	表現学科	52	52	100.00%
	歴史学科	39	39	100.00%
大学全体		1016	906	89.17%

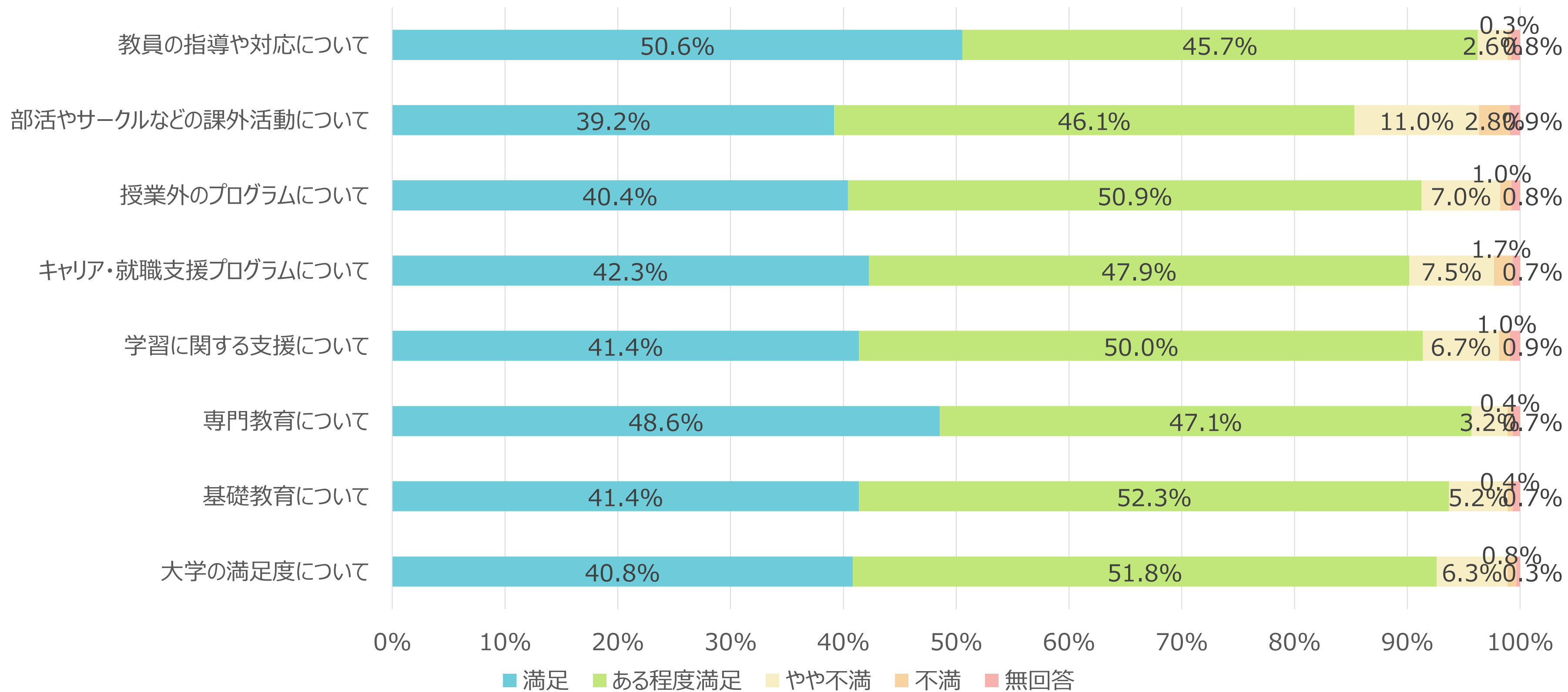
※学部並び順は同一キャンパスを優先している。

※回答は学科欄にマークされていないものであっても学籍番号及び氏名で確認できた場合は、該当学科に入れている。

# 大学の満足度について

	大学の満足度について	満足	ある程度満足	やや不満	全くそう 思わない
1	大学の満足度について	4	3	2	1
2	基礎教育について	4	3	2	1
3	専門教育について	4	3	2	1
4	学習に関する支援について	4	3	2	1
5	キャリア・就職支援プログラムについて	4	3	2	1
6	授業外のプログラムについて	4	3	2	1
7	部活やサークルなどの課外活動について	4	3	2	1
8	教員の指導や対応について	4	3	2	1

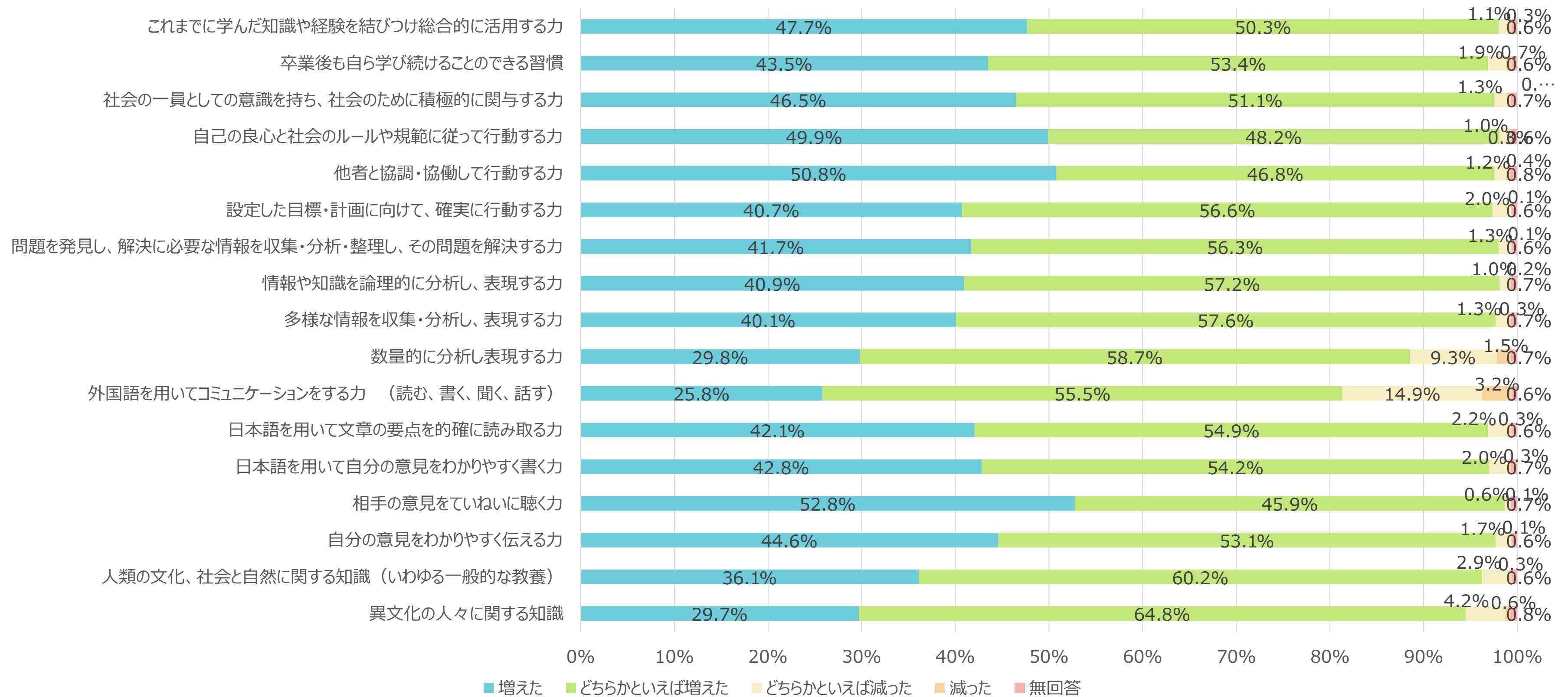
# 大学の満足度について（大学全体）



# 入学した時点と比べて、能力や知識はどのように変化したか

	入学した時点と比べた能力や知識	増えた	どちらかといえば増えた	どちらかといえば減った	減った
1	異文化の人々に関する知識	4	3	2	1
2	人類の文化、社会と自然に関する知識(いわゆる一般的な教養)	4	3	2	1
3	自分の意見をわかりやすく伝える力	4	3	2	1
4	相手の意見をていねいに聴く力	4	3	2	1
5	日本語を用いて自分の意見をわかりやすく書く力	4	3	2	1
6	日本語を用いて文章の要点を的確に読み取る力	4	3	2	1
7	外国語を用いてコミュニケーションをする力 (読む、書く、聞く、話す)	4	3	2	1
8	数量的に分析し表現する力	4	3	2	1
9	多様な情報を収集・分析し、表現する力	4	3	2	1
10	情報や知識を論理的に分析し、表現する力	4	3	2	1
11	問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を解決する力	4	3	2	1
12	設定した目標・計画に向けて、確実に行動する力	4	3	2	1
13	他者と協調・協働して行動する力	4	3	2	1
14	自己の良心と社会のルールや規範に従って行動する力	4	3	2	1
15	社会の一員としての意識を持ち、社会のために積極的に関与する力	4	3	2	1
16	卒業後も自ら学び続けることのできる習慣	4	3	2	1
17	これまでに学んだ知識や経験を結びつけ総合的に活用する力	4	3	2	1

# 入学した時点と比べて、能力や知識はどのように変化したか（大学全体）



# 2020年度卒業時調査結果の分析

## ○大学の満足度について

・一部の学科及び部活・サークルなどの課外活動を除き「満足・ある程度満足」の割合が9割を超え、卒業時における満足度は高い。なお、部活・サークル活動については新型コロナウイルス感染拡大防止に影響を受けていることも考えられる。また2018年度・2019年度の結果と同様に教員の指導や対応については満足度が高い傾向にある。

## ○入学時点と比較した能力や知識について

・2018年度及び2019年度調査結果と同様に英語や数量的な力以外は入学時と比較して9割以上は伸びたと感じている。

・一部の学科はいずれの能力について「減った」「どちらかといえば減った」と回答する学生もあり、今後詳細な分析を行う必要がある。